

# 最適な治療法探す 遺伝子外来開設へ

## 北海道がんセンター、来月

札幌市白石区の国立病院機構北海道がんセンター（近藤啓史院長）が7月4日、「がん遺伝子外来」を新設する。多くの遺伝子を一度に調べることができる最新の検査技術を使い、がんの発生や進行に中心的な役割を果たす遺伝子を見つけて最適な治療法を提案できるといふ。

がんは発症した臓器や組

織ごとに治療法が選ばれてきたが、最近の研究で様々な遺伝子の異常が重なって発症することがわかってきた。発症した臓器が同じでも遺伝子の異常は患者ごとに異なるため、がんの発生や進行に最も強く影響する遺伝子を特定することが重要だといふ。

同センターはこれまでも遺伝子検査を実施している

が、1回に特定の遺伝子しか調べることができなかった。最新の検査機器では一度に160の遺伝子を調べることができ、異常のある遺伝子を早く見つけて最適な治療法や薬を選べるようになるという。検査期間は最短で3週間。現在は保険診療の対象外で、費用は初診と再診の外来費を含め65万円（税込み）。検査結果は、遺伝子解析担当医と同センターの50人以上の医師、専門家が検討し、推奨する治療方法などとともに患者に伝えるという。

予約の受け付けは今月15

日から始めるが、通院している病院による予約か紹介が必要。

検査に関する問い合わせは、同センター（011・811・9111）。予約に関しては地域医療連携室（011・811・9117）へ。

（長谷川潤）